

やきもの ブックガイド



London, AdLlssvm 刊
中英二ヶ国語版 42,634円(参
考価格) 2021年11月刊行
575頁 カラー写真図版(1000
点以上)

Leaping the dragon gate: the Sir Michael Butler
collection of 17th-century Chinese porcelain
Teresa Canepa / Katharine Butler

鯉躍龍門…邁克爾・巴特勒 爵士珍藏十七世紀中國瓷

源 昌久

構成「目次」

- I 鯉躍龍門「タイトルの中国語訳」 章分担者: Katharine Butler
 - 1 コレクションの収集および研究の過程
 - 2 ミッシェル卿への同業者からの追悼文集
- II ミッシェル卿の生涯、著作および展覧会
 - 1 彼の一生および公職
 - 2 彼自身の著作および展覧会のリスト
 - 3 バトラー・コレクションの収蔵品に関する他者による刊行物(論文、著作)のリスト
- III コレクションのカタログ「時代順」 章担当: Teresa Canepa

ると、内容はほとんど政治面での活躍を記している。功績により生前に最上級の勲位(GCMG)を与えられた。一方、本書は、彼の中国陶磁器のコレクター、研究者としての別の人生にふさわしいメモリアルである。彼は、一九六一年にサザビーズ(ロンドン)で初めて、緑釉のポットを購入した。それ以来、少なくとも、死去するまでに約八五〇点の磁器を収集した。二〇一一年に後述の美術館を訪問した際に、彼から評者は、「一九七〇年代にアムステルダムで品物を仕入れて、ロンドンで不必要なものを売却することを繰り返し」と直接に伺った。このようにして、コレクションの基礎を構築したようである。

二〇〇五〜〇六年、上海において上海博物館とバトラー・コレクションとの共同で展覧会が開催された。それ以降、ミッシェル卿は自身の美術館の設立を考えはじめた。二〇〇九年、コ

- 1 晩明(古染付、古赤絵、ハッチャー・カルゴ瓷器を含む)
 - 2 ハイ・トランジショナル「ミッシェル卿の造語」
 - 3 順治
 - 4 康熙
 - 5 単色彩およびエナメル
- IV 陶磁器制作年代の検討、難問題(贋作問題、祥瑞を含む) 章担当者: Katharine Butler
- V 付録
- 1 年表、陶磁器の様式および関連出来事
 - 2 景德鎮、漳州、徳化および港口都市の位置図
 - 3 景德鎮の旧城区における窯址の位置図
 - 4 難破船リスト
 - 5 1550-1723年間の紀年のある瓷器編年表
- 著者について: K. バトラーは、ミッシェル・バトラーの子女の一人である。J. コナバは中国および日本への輸出陶磁器に関する美術史研究者であり、ロンドンの東洋陶磁協会ニューズレターの副編集長でもある。

先日、都内の某古美術店に立ち寄りてみた。店内の飾り棚に長頸の上部にチュエリップ文様のある青花水差しが目にとまった。これは、店主によれば「明末の祥瑞」とのこと。さらに、茶道で水注として伝世していたとの説明があった。本品を特異なチュエリップ文様から欧米でよくいわれているトランジション(明末清初過渡期)様式の以

レクションの保管・展示の為に自宅(Dorset, England)の庭に八五〇点以上の作品を収蔵している新美術館(註)を設立した。二〇〇四年からバトラーとK. バトラーは収集品のデータベース化を開始し、二〇一二年に完成、本書の刊行に至った。

本書の対象は、十七世紀を中心とした中国国内市場向け及び海外市場向けの瓷器である。バトラー・コレクションの各作品を、本書のメインとなるカタログ部分では、晩明から康熙までの期間について青花を始めに記載し、後に五彩などの色彩磁器について詳細にデータを記している。各図版の作品解説には、作品が掲載されている既刊文献名(記号)および「The pots」中の所蔵記号が明示されている。特記すべき点のひとつとして、彼女等はミッシェル卿の未公開私信を活用し、彼の研究姿勢、見解を新たにまとめていることである。本書は、景德鎮で生産された

とつて、海外市場(欧州)向けの水差しと、評者は推定した(阿蘭陀を経て江戸へ渡来か)。いわゆるトランジション様式の磁器の定義は諸説あるが、ここでは一六二〇年から一六六〇年頃の間で、景德鎮で焼成された民間磁器(官窯ではなし)とする。読者の皆様がよく思い浮かべる古染付、祥瑞、古赤絵などもこの潮流のひとつである。

本書は、サブ・タイトルが示すようにミッシェル・バトラー卿(一九二七〜二〇一三)が収集した明末清初過渡期様式に存する中国陶磁器(瓷器)に関する世界最大級のコレクション(彼自身「The pots」と呼ぶ)のカタログ・リゾネである。つまり、トランジション様式全体を見渡すことのできる図書である。バトラーは、一九八〇年代の英国サッチャー政権下で、政策に対してアドヴァイスを与えた著名な外交官であった。イギリスの新聞「The Independent」紙等の死亡記事の記載を見

陶磁器を中心に分析、解説しているが、コレクターのひとりとして評者は、IV章中の贋作に対するバトラーの見識に関する文章にも注目した。

五〇〇ページを超える大部の図書に拘わらず、巻末索引が付されていないことが残念である。改訂増補する際に少なくとも主題、人名、件名に関するインデックスを作成し、付してもらいたい。

本書は、英語・中国語で記述されているが、図書館はもとより日本の古染付、祥瑞、赤絵の愛好家・研究者にとつても有用な書であると評者は確信する。

註 本美術館およびコレクションに関して YouTube と「Making the collection- the Butler family collection of 17th century Chinese porcelain」(https://www.youtube.com/watch?v=Chuftr-GKY) (二〇一四年作成)の動画が収録されている。このコレクションは、ミッシェル卿の死後、子供達への相続問題が生じ分割されたようである。